

新潟県

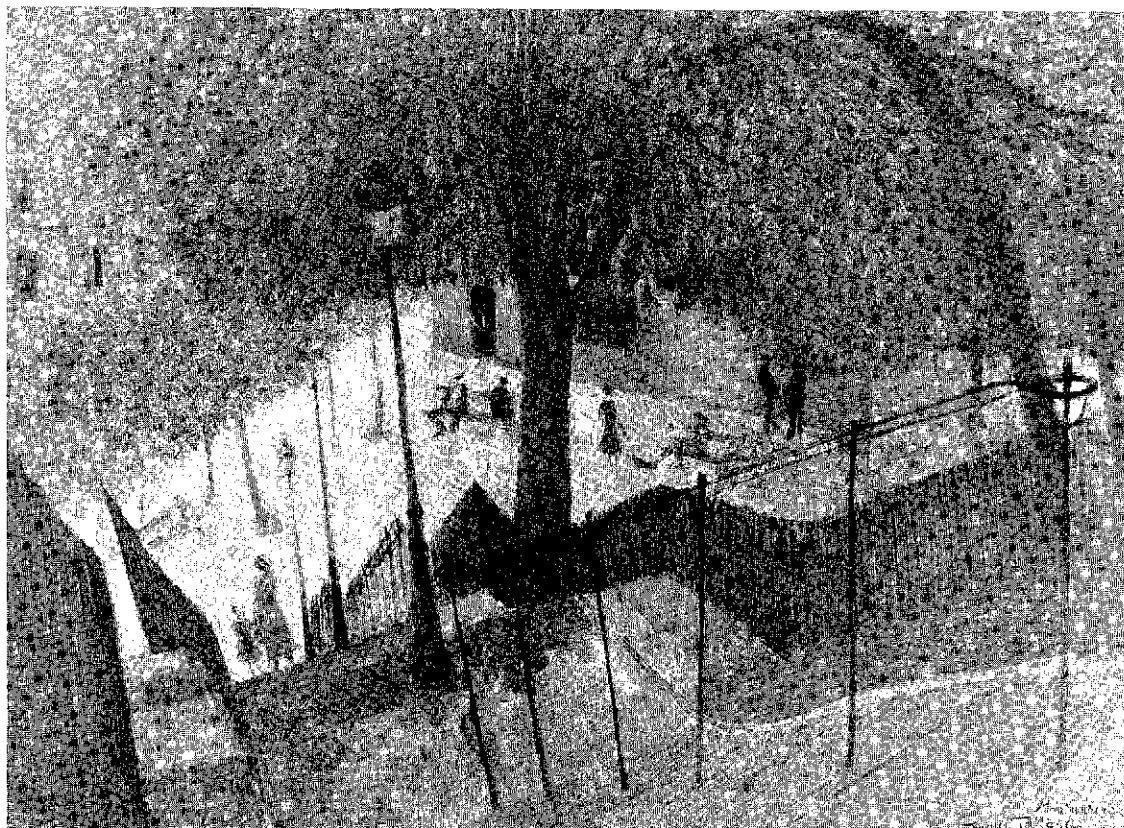
63年

公民館月報

5月
第423号

特集 公民館は、いま！

——いろいろな立場の人100人にききました——



竹谷 富士雄

「モンマルトルの昼さがり」

1987年制作 97.0×130.0cm 油彩キャンバス

新潟県美術博物館所蔵

竹谷富士雄（1907～1984）は生涯のうちに、合わせて10年余りパリで暮した。これは晩期の作品である。滞仏して制作した作品の多くは、公園や港町など日常目にする風景であり、洗練された感覚で、爽快な中間色を使って叙情豊かに描いている。

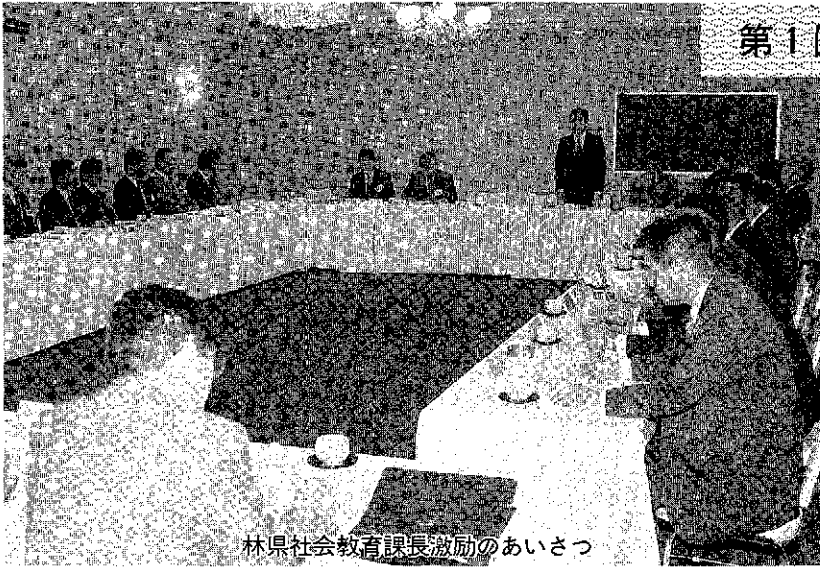
第1回 評議員会開催

会長に木下清一氏(新潟市中央公民館長)を選任

藤本昭雄氏(上越市立公民館長)

副会長は 近藤善彦氏(長岡市中央公民館長)

遠藤謙二氏(新発田市公民館長)



林県社会教育課長激励のあいさつ



志水前会長を迎える懇親会

四月二十二日(金)新潟市平安閣で、本年度第一回評議員会が開催された。

昭和六十二年度の会務報告・歳入歳出決算見込み報告ならびに本年度の事業計画・予算案の審議がなされた。とくに今年度は本会役員改選の年であることから、会長・副会長等の選任に力点をおいた評議員会であった。

評議員会終了後、県社会教育課長林和弘氏、担当社教主事渋谷孜氏、下越教育事務所社教主事土屋秀夫氏の三来賓を交えて、会費持ち寄りの懇親会があり、午後四時三十分閉会した。

当日の出席評議員は三十二名。会議は定刻に開会。

まず、近藤善彦副会長が開会のあいさつに立ち、県下の公民館が十分な連携を図ることが公民館活性化の要諦である。県公連はそのための組織休でもあるので、より一層の連携強

化に努め、期待に答えよう。本評議員会は、今年度最初の会であり、多くの審議事項があるもので、十分な審議を願いたい」旨のあいさつがあった。

続いて林県社会教育課長から今年度の県社会教育行政の重点施策にふれて、概要次の激励のあいさつが述べられた。

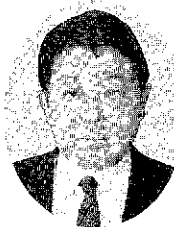
- 一、生涯学習を促進するための基盤整備、とりわけ、生涯学習を進めるまちづくり・むらづくりに取り組んでほしい。
- 二、高齢化・国際化・情報化に対応する社会教育活動の推進を期待する。
- 三、研修の充実の一環として、初任者研修を実施する。このことについて、県公連と同様の事業なので、競合をさけるため、相互の連携を深めてほしい。
- 四、新しい県立の図書館がいよいよ建築にかかる。この図書館はインテリジェントライブラリー(図書館の図書館の意)編集部証)として機能するものなので、公民館も活用できるはず。各公民館においては、今から読書活動の活発化など、対応の用意をすすめておいてほしい。

ついで、議長に高野徹雄氏(西頸能生町公民館長)を選出し議事に入る。

まず、一、昭和六十二年年度の会務報告ならびに、歳入歳出決算見込報告承認、二、役員改選に移る。会長に新潟市中央公民館長木下清一氏を満場一致で選任。副会長、理事、監事については、上・中・下越地区公連が選出母体になっていることから、副会長に藤本昭雄氏(上越)近藤善彦氏(中越)遠藤謙二氏(下越)が選任された。監事は高野徹雄氏(上越)川村新治氏(中越)高橋宏氏(下越)が選任された。また、理事七名については別掲の七氏が評議員会の同意を得て新会長から委嘱された。

次に三、昭和六十三年年度の重点目標・事業計画ならびに歳入歳出予算の審議に移り、それぞれ原案どおり可決承認された。

なお、事業計画のうち、情報機能の充実を図るため、①公民館活動に関する情報資料誌「新潟県の公民館」の作成。②本誌「公民館月報」紙面の充実化の観点から、実践記録取材の偏りをなくするため、「取材協力者」の委嘱、の二事業を新規にすすめることになった。四、には、第三十九回県公民館大会について、主管の糸・西公連の原案のとおり決定。(大会基本構想は既報)



連帯の絆を強く!

木下新会長就任のあいさつ

新会長の木下清一氏は、新潟市教育委員会保健給食課長から中央公民館長に栄転された人。これまで、公民館の事業を外側から見ている方だけに新鮮な発想が期待される。

ここに会長就任の抱負を述べていただいた。

このたび、志水前会長の後任として、大役をお引き受けすることになりました。だが、何分

未熟でありますので、大役を無事にこなせるかどうか不安ではあります。皆様のご支援とご協力によりまして重責を全うして参りたいと存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

あらためて申し上げます。ありませんが、今、公民館は生涯学習の中核的な役割を担う機関として、その重要性をますます増していると感じております。

お願いたします。

また、情報化、国際化などの時代の要請にこたえる公民館としての活動が求められているとも聞いております。

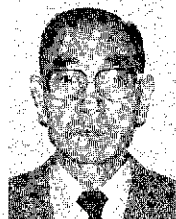
このような課題が山積みして

いる時こそ、県下の公民館の連帯の絆を強くしなければならぬものと思っております。その責務を自覚し、微力ながら精一杯努めたいと思っておりますので、よろしく

辛口

「公運審は形式化し、形骸化してないか、公運審設置の原点にかえり、その本質的な役割と任務を遂行せよ。」と本紙第四一二号よ

せられた出村氏(十日



町市在住)のご意見は、審議員への厳しい批判でもあらうと受け止め読ませてもらった。

活性化し、本質的な機能を発揮していくには、何よりも、委員自身の研修と努力が求められるのかもしれない。

要求、求められている生涯学習の推進、さらには、高齢者と青少年問題や地域福祉の問題、問題は山積し事業の選択も難しくなってきた。

公運審の活性化について

外山 誠四郎

り、参謀であり、羅針盤である。……は言葉のあやであり外交辞令ではない。

はじめ、行政がそれなり

運審と公民館が一体になってお互に知恵を出し合い、研究し活動していき過程を通し、運審は活性化され、公民館もすぐれた活動と運営が期待できるように

現実には、「会して議せず、議して決せず、決して為さず。」公運審を

多様化してきた学習

(三条市中央公民館運営審議会委員長)

昭和63年度役員・評議員名簿

新潟県公民館連合会

郡市名	役職名	氏名	所属公民館
新潟	会長	木下清一	新潟市中央公民館
新潟田	副会長	遠藤謙二	新潟市公民館
新津		湯田幸永	新津市中央公民館
村上		滝波善助	村上市中央公民館
下	監事	高橋宏	燕市中央公民館
	理事	竹内和男	五泉市公民館
西津		加藤利之	向津市公民館
白根		狩谷松雄	白根市中央公民館
豊栄		野々原文康	豊栄市中央公民館
北蒲原	理事	五十嵐藤一郎	京ヶ瀬村公民館
中蒲原		山崎賢隆	横越村公民館
西蒲原		山下英雄	巻町公民館
東蒲原		宮川雅晴	津川町公民館
岩船		佐藤久恵	山北町公民館
佐波	理事	金子虎吉郎	小木町公民館
長岡	副会長	近藤善彦	長岡市中央公民館
三条	監事	川村新治	三条市中央公民館
中越	理事	千原昭夫	柏崎市中央公民館

郡市名	役職名	氏名	所属公民館	
中	小千谷	藤田朝隆	小千谷市公民館	
	加茂	山田欽二	加茂市公民館	
	十日町	梶澤英男	十日町市公民館	
	見附	小川庚	見附市中央公民館	
	栃尾	平澤博	栃尾市公民館	
越	南蒲原	理事 松井秀孝	下山村中央公民館	
	三・古	山崎竜教	寺泊町公民館	
	北魚沼	高橋金一	守門村公民館	
	南魚沼	田村藤治郎	湯沢町公民館	
	中魚沼	八重沢一	津南町公民館	
刈羽		中西昭雄	高柳町公民館	
上	上越	副会長 藤本昭雄	上越市立公民館	
	糸魚川	理事 寺崎匡春	糸魚川市中央公民館	
	新井	理事 近藤義一	新井市公民館	
	中頸城		青柳芳雄	妙高村公民館
	東頸城		石野市太郎	安塚町公民館
西頸城	監事 高野徹雄		能生町公民館	

は、いま！ にききましたー

実施した、公民館の「評価と展望」に関する調
査の全国的すう勢を知る上で参考となる
て主要な内容を掲載した。

一、調査対象
○調査票A 市町村長100名(公
振連加盟市町村長名簿から無
作為に抽出)

○調査票B 学識経験者100名、
(過去10回の全公研集会上お
いて助言・発表・司会を担当し
た人の中から無作為に抽出)

○調査票C 公民館利用者200人、
(各都道府県公連を通じて、
利用者・公連審査員から抽出)

二、調査期日

昭和62年11月11日～28日

三、回収結果

調査票A 87人(87・0%)

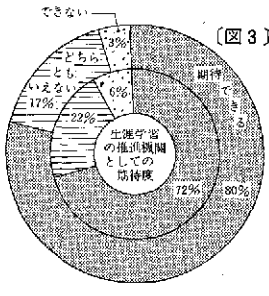
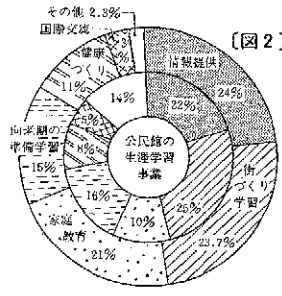
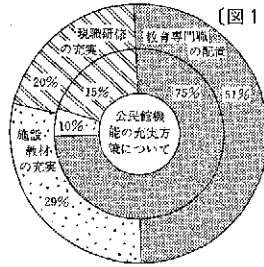
調査票B 83人(83・0%)

調査票C 161人(80・5%)

市町村長100人 学識経験者100人 にききました。

公民館機能の充実方策について

公民館職員の教育専門職の配



いずれも同心円の外側は市町村長、内側は学識経験者。

置を指摘している割合は、市町村長の51%に対し、学識経験者は75%を示している。

現職研修もあわせた職員の資質を充実していくべきという反応は市町村長にあって71%、学識経験者は90%である。

公民館の生涯学習事業

市町村長が公民館に期待する

これからの公民館に対する

要望・意見について

市町村長、学識経験者にこれからの公民館に対する要望・意見について自由に記入してもらったところ80の記入があった。その要望・意見を、内容から1、生涯教育推進体制、2、公民館運営と事業、3、職員に分けてみていくことにする。

1、生涯教育推進体制
生涯教育を推進していく視点から、いくつかの提言をいただいた。とくに、学識経験者からは具体的な提言をいただいた。

その第1は、情報提供事業と関連して「情報機能システム強化」(具体的にはニューメディアに対応できる設備の充実)、あるいは「県の生涯教育センターと

生涯学習事業の第一位は情報提供(24%)、第二位は街づくり学習(23・7%)である。学識経験者は、第一位が街づくり学習25%、第二位情報提供22%と入れかわってはいいるが、両者をあわせて「地域の教育施設」として公民館が期待されている。

生涯学習の推進

機関としての期待度

市町村長の80%、学識経験者の72%が機関として期待できると回答している。

オンラインで結ぶことが緊急課題」という指摘もあった。

また、公民館機能を充実させるアイデアとして、学識経験者より「公民館ネットワーク化とインテリジェント化」という提言もあった。

第2に、生涯教育推進のための組織づくりの視点から「21世紀生涯学習体系づくり協議会」を発足させようという提言もあった。

2、公民館運営と事業

公民館の運営理念として、あらためて地域の教育機関であることを確認する意見が市町村長、学識経験者の両方から出されている。

たとえば、市町村長からは、「地域ごとに根ざした施設の有効活用」、「地域の教育力向上をめざす運営能力」などの意見がだされ、学識経験者からは、「地域住民とのつながりの強化」をもとめる意見がみられる。

事業については、「街づくり」「人づくり」事業への期待、提言がなされている。たとえば、「地場産業に役立つ人づくり学習」、「学習成果を地域に還元する事業の開発」ということが市町村長からだされている。

一方、学識経験者からは「学習の主体者としての力量を形成する拠点」という要望や、事業編成の視点として「市町村の計画する活動と地域住民の連帯的活動の相互通行的なありかたが絶対必要」という意見がみられる。

3、職員

市町村長、学識経験者ともに、公民館職員の専門職化とそれに対応した職員の資質向上を求めるとの要望がみられる。

たとえば、学識経験者は「社会教育に識見と経験を有する専門職の配置が必要」、そして職員に「研修の強化」を求めている。

また、一館当たり3名以上の職員をおき、5年以上勤務」という具体的な職員体制への提言も

〔表1〕

公民館の学習機会の提供について

Table with 10 columns: Item, Sex, and 8 evaluation categories (現状評価 and 将来期待). Rows include items like '地域の文化・教育学習の機関として機能しているか' and '公民館が生涯学習の推進に果たしている役割'.

公民館主事と公民館運営審議会について

Table with 5 columns: Item, Sex, and 4 evaluation categories. Rows include '公民館主事は学習の相談・助言者としての役割を果たしているか' and '公民館運営審議会は公民館の運営にあたって有効に機能しているか'.

公民館 いろいろな人100人

この特集は、昨年度全国公民館連合会で実査結果である。近年の公民館の評価と展望に資料である。ここに全国公連当局の了解を得

みられた。公民館職員に求められる資質については、市町村長から具体的に...

すなわち、現状打開の方向として、公民館職員の資質の向上という内部努力によるのではなく、外部からの活力導入によ...

市町村長、学識経験者の7割は、公民館が生涯学習推進の中核的な機関として期待できると回答していた。しかし、そのためにはニューメディアに対応...

市町村長、学識経験者調査結果との比較。40歳以上で、若年層の割合が低い。だが、調査目的が問題や課題発見のためのパイロットサーベイなので承知してほしいと記されていた。

公民館の学習機会の提言について 利用者対象の調査結果について

て、調査報告書では、各間帯グループに解説つきで記載されています。

公民館利用調査の結果をみると、情報提供関係の項目(11)(12)の現状評価は高いとはいえず、見直しを含め現状以上に充実化を求めると、男性で約8割、女性で約7割に達している。

このようにみてくると、公民館主事は公民館利用者から学習活動を進めていくうえで頼りになる存在として認められているといえよう。こうした公民館職員の職務をより一層充実させ、発展させていくためにこそ、公民館主事の職員の身分を安定させて職務に専念できる体制を確立することが求められているといえよう。市町村長と学識経験者が、ともに公民館職員の専門職化とそれに対応して職員の資質の向上を求めていることは、公民館利用者の期待と対応しているのである。

実践記録シリーズ

(23)

わしらはシルバー探偵団

豊栄市中央公民館

豊栄市は、県下一の人口増加の市である。それだけに、市民の生活課題や学習要求が多様化してきている。この傾向は、高齢者も例外ではない。

等質的な環境に生きてきた明治・大正初期生まれの高齢者層に、企業戦士として高度経済成

長期を体験した、いわば、高齢者の新人類が参入してきた。この層の人たちは、趣味や生きかたが個性化し、集団から個人化の傾向を示している。程度の差はあれ、若者と類似の現象が起きている。これを高齢者の若者化現象と呼びたい。

発想の転換

これまでの高齢者対象事業(寿学級)を検討した結果、①高齢者を意識するあまりに、老齢年金とか保障などの高齢者の直接的な問題の学習に偏りすぎていた。②学習参加の呼び掛け方法として、老人クラブを主たる対象にしていたため、参加者が固定化し、老人クラブ未加入者の加入促進につながらなかった。③「寿学級」終了後のアンケート結果からも、政治や経済の学習内容とともに社交ダンスの希望も多

く、公民館(の職員)が考える以上に行動的であり、学習意欲が旺盛なのである。④この、若者化現象は、高齢者としてみる前に一人の人間としてみる視点が大切であることが分った。だから、六十歳以上を包括して高齢者としなくて、六十代・七十代と、きめ細かな対応が必要と思われた。

以上のことから、今回は比較的若い高齢者をターゲットにして、「シルバー探偵団」を企画し



た。(事業計画は左表のとおり)

実施後の感想

参加者の平均年齢六十二・八歳。出合いを大切にし、歴史を

わっわっわしらはシルバー探偵団

ねらい 街に出て、遊・食・言

の若者文化に挑戦し、若者についての理解を深め、あわせて、自らも行動的になろう。

参加者 60歳以上の男女 団員数21名 団費2千円 回数4回

一回目 遊 新潟市のブルーベリーで若者に今一番人気のあるビリヤードに挑戦

食 ハンパーガーショップで立ち食いに挑戦

二回目 言 新聞のカタカナ文字を理解するための学習

三回目 遊 映画「ラストエンペラー」の鑑賞

四回目 食 「一回の寿司」に挑戦

つくりたいと意気軒高。

七十歳の女性団員との会話「ハンパーガーうまかった?」「うし、負けた。」

「はぁーん?」

「牛負けた、馬勝った、うまかったということよ。」

団員の感想はこの会話で集約されるが、公民館の立場で感じたことを二三あげよう。

○ネーミングの大切さ

「寿や高齢者という言葉に抵抗を感じている人が大半。ネーミングの大切なことを教わった」

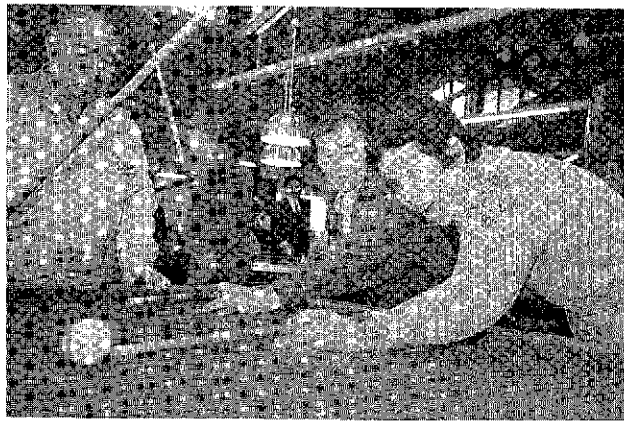
○カルチャーセンターとの違い
カリキュラムの中に、参加者が主体的に関わる場を設けることがコミュニケーションを深め

自主グループへと発展するきっかけとなる。そこがカルチャーセンターとの違いである。

今後もシルバー探偵団事業を継続し、自主グループを育て、探偵団ごっこを輪を広げ、老人パワーで健やかに老いる高齢化社会の方向性を見出し出したい。

今年度は、レディス探検隊を結成し、探偵団と一緒に遊び、行動するカリキュラムを組み、事業の中で世代間交流を図り豊かに栄える市づくりを日指したい。

(豊栄市中央公民館 主任 清水重蔵記)



青年学級開設40周年

十日町市公民館

十日町市公民館から、「十日町青年学級報告書」が贈られてきた。また、学習集録第15号「わたしたちの学習」と、学級生の編集になる「炎」も添えられていた。

○ 青年らしい生活を求める青年がいること
○ 青年のために、青年を学習主体として育てようと努力している職員・助言者・講師が

○ 青年らしい生活を求める青年がいること
○ 青年のために、青年を学習主体として育てようと努力している職員・助言者・講師が

情報広場

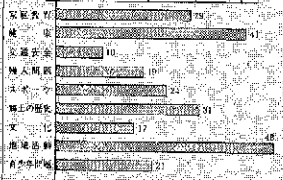
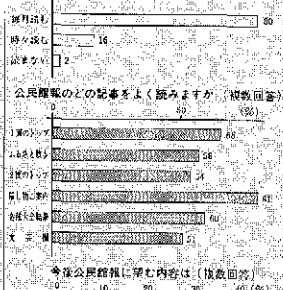
館報発行四百号

小須戸町中央公民館

400号記念 公民館報 アンケート調査結果

昭和63年2月25日～3月10日 回収率 31%

あなたは公民館報を



「館報への要望をお聞かせ下さい」
 ○ 希望の追加欄がほしい
 ○ 希望の追加欄がほしい
 ○ 希望の追加欄がほしい

歴史と伝統を生かし、マンネリ克服に取り組んでいる関係者の青年を愛する英知と努力によるもの。
 であると思われる。今年も節目の年として記念式典も用意されている。盛会を祈ると共に、今後のより一層の充実を期待する。



こちらは、公民館報発行四百号の記念特集号の紹介
 中蒲原郡小須戸町中央公民館で発行している館報(月刊)の四月十五口号が四百号になる。
 「昭和二十四年十月一日に第一号が発行されて以来、途中の数年間は隔月発行になりながらも三十九年という長い年月をかける、記念すべき四百号を迎えることができました。」とある。
 「読まれ、親しまれる館報」づくり四百号。先人の業績を継承し、より一層町民に身近な情報紙となるように祈る。

三島町公民館主事

池田 哲氏 (22歳)

町役場職員に採用されてから四年、公民館職員となってまだ一年、とは言うものの持ち前の明るさと初対面の人ともすぐ打ち解ける特技を持ち公民館職員としての資質は十分で公民館事業をグイグイ推進している。



「西山連峰登山マラソン大会」の案内文書発送、受付

「青少年女子スポーツ教室」の運営等で忙しい日が続いている。昨年は忙しい合間をぬって県教委主催のボランティア講座を受講している。今年も青少年研修センターが主催する「第十二回青年の丘」(七回シリーズ)を受講するそうである。研修意欲もなかなか旺盛である。

彼の悩みは、腰の周りに余分な肉がついてきたことである。率先垂範、適度な運動を取り入れて息の長い公民館主事としての活躍を期待したい。
 (三島町公民館 塚田寛記)

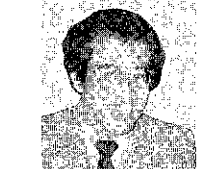
素顔拝見

新潟市東地区公民館社教主事

小川 昇氏 (36歳)

シティボーイだった彼が公民館に勤めて十三年日になる。今は働き盛りで、家庭では二児のよきパパである。

が成功したとき。充実感もてる。」
 「じゃあ、落ちこんだ時は？」



「楽しい時のことを思い出して乗る切のしかないさ。」とさりげないが、奥の深い答えが返ってきた。

年度のはじめで忙しい時なので、電話によるインタビューだったにもかかわらず、さわやかな対応でした。

(新潟市鳥屋野地区公民館 伊田千代子記)

市民と、一緒に企画した事業

社会教育課

社会教育主事等職員

初任者研修(前期)開催

既報のとおり、県社会教育課では、今年度の新規事業「社会教育主事等研修会初任者コース」が実施される。このうち、前期は5月25日、27日の二泊三日で県立青少年研修センターが会場になってい

研修内容としては、①青少年教育・成人教育・婦人教育・高齢者教育・家庭教育のいわゆる生涯の各期にわたる教育の現状と課題、②学習講座の開設と運営、③話しあい学習の進め方、④公民館事業の計画と展開、⑤国際理解教育、など、初任者必修の内容となっている。

この初任者研修は市町村の社会教育主事・公民館主事などを行

県事業紹介

よろしく願いたいします

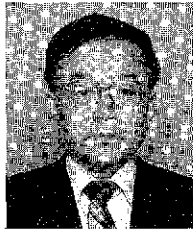
県社会教育主事 渋谷 孜

生涯学習推進のための体制づくりが進められている現在、公民館の果たす役割が改めて問われているのではないだろうか。多様化する学習要求への対応に、公民館が生涯学習センターとして学習活動の拠点になること、地域づくりへの自発的

活動の仕掛人に徹すること、関係団体や機関との連携・協力の推進役になることなど、その任務は重く大きいと思います。

このような重要な時期に、浅学非才の私が社会教育行政の末席を汚し、公民館活動推進への手伝い役を命じられたことは汗顔の至りに思っています。

これから一生けん命勉強して何とか少しでもお役に立てればと思っていますので、何とぞよろしく願いたいします。



渋谷 孜 氏

対象にして、9月20、22日の2泊3日の研修に引き継がれ、さらに幅広い基礎的知識・技術の習得の機会になっている。

すでに開催要項は市町村教育委員会に通知済みなので参照されたい。また、申込み受付期限は過ぎても、受付けを許可する場合もあるので、関係すじへ問い合わせられたい。

あとがき

◆本紙の特集「公民館は、今」は、全公連から届いた同名の調査報告書の一部抜粋による紹介である。解説文のほとんども借用してある。

他人の〇〇で相撲をとるようで、少々うしろめたい思いもするが、あえて紹介した。全公連の好意に感謝する。

◆同じ全公連から、第11回全国公民館研究集会の開催要項が送られてきた。

なお、当県公連では、公民館職員のみを対象とした研修を実施する予定であるが、当方の内容は学習プログラムの立案に関する、専門的・実践的な内容と演習に力をおいているので、都合の不安はない。

でき得れば、両者の研修を受け

早速市町村公民館あてに配布

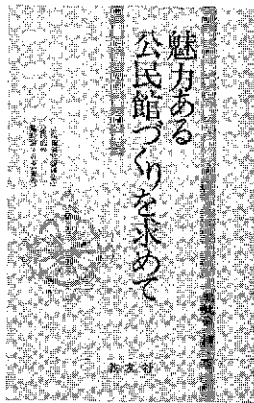
公民館運営審議会委員必携

魅力ある

公民館づくりを求めて

朝比奈 博 著・教友社

良書紹介



魅力ある
公民館づくりを求めて

生涯学習を進める「むらづくり・まちづくり」が公民館の重要な課題となっている。公民館がこの課題をうけて、生涯学習推進の中核センターとして、真に住民のための施設となるためには、公民館運営審議会委員の力によるところが極めて大きい。というより、「公運審」の力がいまこそ必要になっている。それは、単に住民・団体の利益代表としてだけでなく、公民館の「立場」を尊重した発言と行動が求められているからでもある。

この期待にこたえるべく、公運審委員のより一層の研修が必要となろう。

本書はそのためのテキストとして、委員個々の常時必携の参考図書として推薦する。(新書判、160頁、昭和60年5月刊、定価六百円 送料実費、お求めは県公連事務局へ。)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部 120円 年共 1,440円】

(上村)

してあるので、詳細をご覧いただきたい。なお参加希望者は、市町村公民館とおして、県公連事務局へ6月15日までに参加費を添えて申しこまれたい。